中国学専攻)

の話

「開放政策を

たようだ。

今後は政治、

めぐる保守派と閉放派の対立とい

ての面で引き締めが行われ、

ではないだろうか」

とっても、これはゆゆしい事態

派のバランスの上に立っていた。

もともと鄧氏は王震、薄一波、

那陣営内部の内部分裂

こみるべきだ。

さらに含えば、

体制を維持するために、

小島朋之・京都産業大教授(現

かし、これは実現しなかった。こ

の結果、胡総書記の立場はきわめ

を切らざるを得なくなったのだろ

派に受け入れられるものがあった

趙紫陽氏も改革派だが、保守

このため、鄧氏としても胡総書記

て胡氏を切るよう強く要請した。

策を危険視して反発、鄧氏に対し

保守派が胡氏の進める開放経済政

て微妙になり、以来、胡と鄧両氏

辞任は保・革

妥協の産物

トする

「暮れの二十五

胡体制の歩み

年1977。 目の復活が決定 党第11期全国代表会議(11回党大

で鄧氏を副主席、政治局常務 间大会で胡耀邦 か。胡城邦氏に目をかけてきた鄧

段近では調子の軽す

主席交代を求めたと思われる。

胡氏が公の場に姿をみせなくなった。

今回の人事は妥協の産物だろ

胡氏は総書記を退

いたもの

は弱まった。第三には、

胡氏の子

があ

るのではないか。

う。利益論の世界とみるべきた」

政策上の差はない

胡氏は辞任に追い込まれ

ープゴートにされたのではない

1978 - 3

胡犀邦氏が全国的な「真理検証」 編争を組織し毛沢東の絶対的な権

威を打破

へ名誉回復。 氏が同総会で党中央政治局員に昇

胡四邦氏が党中央遺伝部長に就任 三中総会路線の賃伝の強化を 部小平氏が中央の理論工作会議

「四つの抵本原則」を提唱 し、思想解放に一定の枠をはめる党中央と国務院が広東、福建両省 に4経済特区を設立することを決

周年記念祝賀大会で文革の行き過ぎや過ちを認める演説を行い、実質的に毛沢東と党中央の無謬性を 胡電邦氏、趙紫陽氏が第11期第5 1980 - 2

回総会で政治局常務委員に昇任。 胡耀邦氏は新設の党中央書記局総 書記に就任。劉少奇元国家主席ら の名誉回復決定 趙紫陽氏が第5期全人代第3回会

議で華国鋒氏に代わり国務院総理 (首相) に就任 いわゆる「四人組裁判」で、江斉、 **張春橋が死刑、執行猶予二年の判**

決を受けた 胡暉邦氏が党第11期六中総会で葬 1981 • 6 国鋒氏に代わり党主席に選出さ **戦氏はヒラの中央委員に格下** けされ、文革派がほぼ一掃される。 、誤り第二」とする「歴史決を採択、鄧小平氏が党軍事委

第12回党大会で胡耀邦氏が党総制 1982 • 9 記に就任、中央委員同候補348人の うち6割以上が新人で党の若返り が進み、鄧小平体制が固まった新 しい党規約を採択

第5期全人代第5回会議で新憲法 を公布、同憲法で人民公社の解体 が決定される 鄧小平氏が第6回全人代第1

1983 • 6 発生(~84初めに鎮静化) 胡啞邦氏を主任と する中央整党指導委員会を設置

第6期全人代第2回会議で趙紫陽 1984 - 5 首相が体制改革と対外開放の契施 などを強調した「政府活動報告」 党第12期3中総会で「経済体制改

革に関する決定」が採択、主に都 市の経済体制改革についての重要 第6期全人代第3回会議で趙紫以

「当面の経済情勢と経済体 制」を報告、経済体制改革と開放 政策をさらに推進することを確認 人民公社が完全に解体し9万2千 以上の脳・鍼人民政府になる 鄧力群氏が党中央食伝部長を解任

党全国代表会議で政治局員に胡啓 「第三グループ」の改革派 の若手幹部が多数起用される。 の半面、保守派の胡喬木氏が政治 局員に部力群氏が中央委員に居残 軍関係の長老、薬剣英氏らず 人が引退 第2次「百花斉放、百家争鳴」始

党第12期6中総会で「精神 文明決議」採択さる 民主化要求学生デモが中国各地で

鄧小平氏が胡耀邦氏に対し、 「辞職勧告」を含む3回の激しい 批判をしたと伝えられる 党政治間拡大会議を開き、

書記の辞表を受理

在したきっかけでも噴き出す地下 内部に大きな亀裂 一国の民主化を求めるエネルギ 歴史的に考えても、

スケープゴートの胡氏

產経新聞

桑原 寿 専中

ぎる胡総書記を苦々しく思って なものである。 に沈潜した火山脈のマグマのよう いくら弾圧されても、 自由を求める知識 共産主義政権成立 とりわけ文芸界の 係。を内外に誇示した中曽根首相 派の巻き返しが始まる。 った。 起こっている。そういう観点から 抵抗はすさまじく、ほとんど毎年 を訪れ、胡総書記との『親密な関 みるなら、中国共産党が「百花斉 は、ヤブをつつくようなものであ 放、百家争鳴」を行うということ 胡喬木各氏ら保守派と胡氏ら改革 すそ野を形成している。中国の学 が、このような動きが学生運動の のものか々という声が出ている れの学校はエリートを育てるだけ 生は日本とは違い、

えられない状態になっている。党 いてすら、学内討論会で、われわ 主と自由を求める民衆の声はおさ のエリートを養成する党学校にお 七九年からの対外開放政策で民

運動の英雄になると思う。

て爆発することだろう。その際、 保守派の部力群氏が党内の宣伝

学生デモを開動した吸木人として 処分された方
励之氏などは民主化 学生たちは今後もきっかけをみ

のは非常に重大な意味をもってい で、その学生がデモを行うという 少数のエリートという特殊な存在

ば、民主に、 られない一つの大きな社会的潮流 になっているからだ。 のエネルギー 継続せざるをえない。なぜなら

締められていこう。とはいっても 工作面を担当することになったこ ーは、もはやせき止め 自由化へ向かう民衆 放政策は基本的には 昨年巻からの第二次「百花斉

手をこうむるだろう。

るならば、すでに低下している党 加速した。胡氏辞任によって、物 言えば唇寒し。の状態に逆戻りす に対する民衆の信頼は徹底的に痛 百家争鳴」もこうした傾向を 党が対峙していくなかで、軍が政 が開かれたことしか伝えられてお

沈黙を保っている。

だ。これまで、学生デモの時期に

見逃せないのは、軍がどう出るか もうひとつ、今後の動向として 気味な動力源がある。 治動向のキャスチングボ っていくことになろう。

日政策 など急変 さそう

ー・アジア経済研究所研究主任

人事は、 放経済政策は 結論的にい 石原 経済政策上の失敗とその 変わらない。今回の うと、これまでの開 凹図と思う。経済政策が変わらな 責任の所在の追及とは別の次元の いだろうという見通しの理由の一

引退まで続くとみる。 ラウンドというべきで、攻め合い まは鄧と胡両氏の駆け引きの第一 の影響力が著しく低下したが、 はまだまだ続く。 常務委員はそのままだ。 鄧氏の物理的な

がある。一つ目は郊氏自身の影響 ていない。自派としての力に限界 守派には胡氏に代わる人物を擁し 保守派の力が増したとはいえ、保 今後の問題は三つある。

れ、保守派寄りになった鄧氏の力 力の低下だ。力のバランスが崩 どの解任劇は、 くところまで

撃していくの の部下の出方 務えた者が多 さらに く、鄧氏に対して反 ではないか、とみて 胡啓立氏ら力を

(中国哲学史等攻)の話「こん 加地伸行・ 大阪大学文学部教授

あとさらに、第三ラ 行った一つの結果だ 社会主義が行きつ 守派、ア開放派といったイデオロ ず、、、政府があるだけで、 うなっていくのかは、予想が難し 一論ではなく、派閥の強弱を争 中国には《国家》は存在せ

飼いの共海団系統といわれる若手 ないだろう。若者が外部の世界を れない。反右派闘争や文革のころ 化要求は止めようとしても止めら 知ってしまった今日、民衆の自由 とは状況が余りに違いすぎている からだ。共産党内部の力関係がど 開放体制は変えられ

どうするかで意見の違いはあるだ

は七〇%だったが、いまは全く逆 で、七0%が外から金を払って購 込んだ。また、農村部の自給自足 前では、石炭や鋼材などの生産財 は元には戻れない。 済実態上の違いがある。七八年以 人できる体制です。こうした体制 年以降は二五一五〇%にまで落ち 配分されていた。ところが、七八 の七〇一九〇%が中央政府の手で 七八年の前と後では、

策上の対立があったとは、考えに 経済政策の大きな違いはないとい うこと。現在の指導部内で経済政 第一は、保守派と改革派の間に

きな違いはない。

のことは起こるかもしれ ない。し

針ではよくない。もっと外貨を獲 までの段階で、特区政策上、妥協 あったようだ。ほぼ昨年三月ごろ の産物ができた。。これまでの方 推進派内部でかなりの意見調整が 経済特区については、最近改革 つぶさな

長征に従軍。 加し、33年共産党入党、

は、49年の太原攻略や50年の四川 の政治畑を歩んだ。 解放に参加。 大学に入学、抗日戦争では、第一 歴出身。30年共産主義青年団に参 記などを経て、57年共 、集団軍総政治部組織部長など軍 新民主主義青年団中央 37年延安で抗日軍政 国共内戦で 34年から 、庭主義青

校副校長、党組織部長を経て78年科学院の再建に当たる。中央党学 革で批判され、67年失脚。 単色の一掃を決議した81 周常務委員兼党総書記に 副首相(当時)の下で重 年団中央第一書記となっ 一期六中総会で華国鋒氏 首相(当時)の下で重用され、72年復活。73年復活した鄧小平 主席制廃 に代わり 年の第十 就任。文 2月政治 たが、文

えることができないという点だ。

つは、もう経済の実態をだれも変

単一戸別請負制―を真っ先に実施 発言をする人という印象が強い。 いわせたほどの改革派。胡氏と大 した人物。「めしを食いたけれ は出身の四川省で経済(農業)改 、物といえるだろう。元 方の趙氏。経済改革の象徴的な 胡氏は開放経済につい 四八行け」と他省 々、趙氏 て大胆な の人間に

だろうか。ハ一年のときは、財政 の接触を規制したが、あのくらい 的な引き締めや精神汚染運動が盛 んになった。あのときは外国人と 対日を含めた対外政策は変わる

かし、契約変更など対外経済政策 の急変はありえない。